

三 学 期	第5章 経済生活を営む 1 職業生活を設計する 2 計画的に使う 3 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 4 消費行動と意思決定 5 現代の消費社会 6 消費者の権利と責任 7 これからの消費生活と環境	○高校卒業後、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ○生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ○国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ○消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解する。 ○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ○消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。 ○環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。	・実生活の家計の収支を認識させる。 ・クレジット払い等のリスクを実感させる。 ・日常のニュースから実際に起こっている消費者問題を集めさせる。 ・持続可能な社会になるために自分でできることを考えさせる。 ・視聴覚教材の活用	学 年 末 考 査
	《課題・提出物等》			
	1 ワークシート、学習ノート			
	《第3学期の評価方法》 定期考査（7割）、授業・実習態度（2割）、提出物とその内容（1割） ※加点 ・授業中の積極的な参加、発表 ・実習中の積極的な行動及び協調性 ※減点 ・忘れ物、落書き、遅刻、授業態度の悪い者			
《年間の学習状況の評価方法》 学習状況は、後に示した4観点から評価した1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績を総合的に判断し、年間の学習成績として評価します。				

4 評価の観点と評価方法

学習状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能表現」及び「知識・理解」の4つの観点から評価します。具体的な評価基準は下の表を参考にしてください。

評価の観点と趣旨		評価方法
関心・意欲・態度	○家庭生活の課題に関心を持ち、その課題の改善・向上を目指して意欲的に参加しているか。 ○実習や実験等に積極的に参加しているか。	○授業・実習への参加状況 ○授業中の発表 ○提出物
思考・判断・表現	○家庭生活の課題について、自己の問題としてとらえ、改善・向上を目指し思考を深めているか。 ○家庭生活の様々な場面において適切な判断・選択ができるか。 ○自分の意見をまとめ、発表、表現できるか。	○提出物 ○授業中の発表
資料活用の技能表現	○生活上の課題の解決法を考え、実践することができるか。 ○被服製作の基本（基礎縫い・ミシン等）を習得しているか	○被服製作の基本の習得状況 ○提出物
知識・理解	○家庭科に関する基礎的・基本的な知識を身につけているか。	○定期考査

5 授業を受ける際の注意事項

- 家庭総合の学習を通じて、各自の家庭生活の課題を見直し、改善向上するように心がける。
- 忘れ物をしない。
- 課題等の提出期限を厳守する。